

次世代に夢をつなぐ 防災カレンダーづくり



徳島県由岐町立由岐中学校 大田 弘士
徳島県由岐町総務課 浜 大吾郎

2006.2.18 第3回防災教育チャレンジプランワークショップ

防災教育の概要



目的

生徒達が防災に関する知識・技能を習得し、地域の防災上の課題などを共通認識した上でその解決方法を考え、それらを防災カレンダーにして地域全戸に配布することにより、生徒達が地域防災力の向上に貢献することを目的としました。またそれに加え、生徒達自身が防災教育を通じて自分の地域を知り、地域を愛し、将来の地域の担い手となることを目指しました。

3つの目標

- ・ 防災に関する知識・技能の習得
- ・ 人、地域を大切に思う心の育成
- ・ 協同の精神の育成

対象及び人数

由岐中学校 1 学年 3 2 人

実施日時

2005年5月13日～2006年2月24日

「総合的な学習」の時間を利用した。

延べ授業時間は40時間（1時間＝50分）

なぜ防災カレンダーなのか

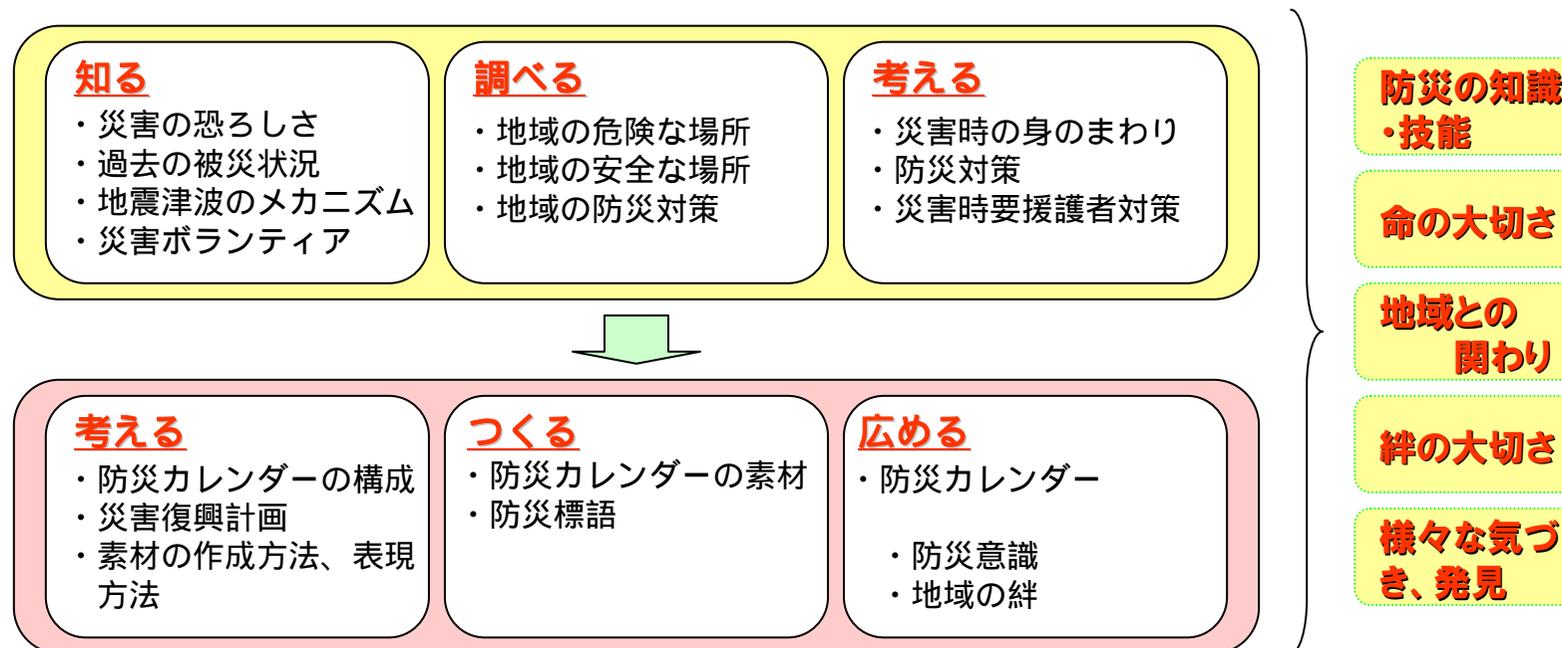


- ・ 防災に関する素材づくり、防災標語、過去に起きた災害など、防災に関して幅広く関わることができる。
- ・ モノづくりの楽しさを味わうことができる。
- ・ 地域防災力を向上させるためのツールとして活用することができる。
- ・ 生徒はもちろんのこと、地域にとっても宝物となる。

日常的に見るものと、見せたいものとをハイブリッド化

防災教育の流れ

学習プラン全体を防災の内容だけで固めてしまうのではなく、生徒達が防災教育を通じて、防災はもとより、グループワークの楽しさやモノをつくる楽しさなど、様々なことに興味を持つような仕掛けづくりをプランニングしました。具体的には、プランを前半と後半に分け、前半は「知る・調べる・考える」をキーワードにして防災や福祉に関する学習、地域の調べ学習等を実施し、後半は「考える・つくる・広める」をキーワードにして復興計画の検討、防災カレンダーづくり、地域への啓発を実施しました。



1学期の概要

徳島大学の村上仁士教授が提唱する「地震津波防災の基本」をベースにして、1学期のカリキュラムを組み立てました。それによって、生徒達が防災の知識技能を習得し、生徒自らが防災や地域について調べたり、考えるようになることを目指しました。

地震津波防災の基本

- ① 地震津波の恐ろしさを知る。
- ② 過去の被災状況を知る。
- ③ 次に起こる地震津波を予測評価する。
- ④ 地震津波の対策を実施する。

提唱者／徳島大学 村上 仁士 教授

1学期のカリキュラム

| | |
|----------|------------------------|
| 5月13日 | 「地震津波の恐ろしさを知る」 |
| 5月16日 | 「災害を語り継ぐ」 |
| 5月17日 | 「防災訓練」 |
| 5月20日 | 「地震津波のメカニズムを知り、対策を考える」 |
| 6月3日、10日 | 「地域の防災マップをつくろう」 |
| 6月17日 | 「防災と福祉を考えよう」 |
| 7月1日、8日 | 「災害防災インタビュー」 |
| 7月15日 | 「1学期を振り返る」 |

2学期と3学期の概要

2学期は1学期に学習した内容を引き継ぎながら、防災カレンダーづくりを実施しました。具体的にはカレンダーの素材づくり、標語づくり、災害発生日の調査などを行いました。これらの作業を通じて生徒が防災だけでなく、モノを作る楽しさや協同で作業を行う楽しさ、難しさなどを実感し、様々なことに興味を持てるように努めました。また「未来予想図～災害復興会議～」では、災害対策を復興対策から考えることで、未来へ繋がる提案づくりを実施しました。

3学期は完成した防災カレンダーを地域に広めることで、地域と関わり、地域の防災意識の高揚に努めました。

2学期と3学期の概要

2学期と3学期のカリキュラム

| | |
|--------------|----------------------------|
| 9月30日 | 「防災カレンダーづくり①(1～6月まで)」 |
| 10月14日 | 「防災カレンダーづくり②(防災標語)」 |
| 10月21日、11月4日 | 「防災カレンダーづくり③(今日は何の日フッフ～♪)」 |
| 11月11日 | 「未来予想図 ～災害復興会議～」 |
| 11月18日 | 「防災カレンダーづくり④-1(7～12月まで)」 |
| 11月21日 | 【特別授業】「公開取材」 |
| 11月25日、12月9日 | 「防災カレンダーづくり④-2(7～12月まで)」 |
| 1月13日、20日 | 「お世話になったあの人に防災カレンダーをわたそう」 |
| 2月24日 | 「防災学習をふり返って」(予定) |

防災カレンダーづくり①「1～6月まで」

カレンダーづくりを通じて1学期の授業をふり返り、ビジュアルを使って人に伝えることの楽しさや、モノを作る楽しさを知ることを目的としました（防災から出発して、様々な事柄に対する興味を持つ）。



「ほっとこうち」編集部 廣澤氏による講演の様子

「外野の人たち」班

テーマ：日頃から備えておく物



選んだ素材：非常持ち出し袋など

備えあれば
憂いなし

「くまちゃん」班

テーマ：災害を語り継ぐ



選んだ素材：災害防災インタビュー、人を助けた木

一番は
お金のじゃがいも
命だ

防災カレンダーづくり①「1～6月まで」



「フリーダム」班

テーマ: 災害時要援護者対策



選んだ素材: 車いすによる避難

みんな
で協力し
合い
生きのび
よう

「サランラップ」班

テーマ: 南海地震が起これば

由岐町はこうなる



選んだ素材: 被災直後の絵

地震が起これば
すぐ逃げろ。

「読売巨人軍」班

テーマ: 防災訓練



一秒でも早く助けること

選んだ素材: 心肺蘇生講習

「個人軍」班

テーマ: 地域を知ろう



選んだ素材: 田井の崩れそうな崖

崖崩れより
早く逃げろ

防災カレンダーづくり②「防災標語」

カレンダーに掲載する防災標語を全員で考えることにより、防災に関する教訓などを共通認識しました。

また、標語づくりを通して国語力のアップも目的の一つとしました。



防災標語最優秀作品

津波が来たら どちらを選ぶ 命か金

「助かる!!」気持ちを大切に

日頃から 考えていよう 地震のことを

「またあとで」なんて言わずに 備えよう

守り合い 支え合うこそ 友情の輪

分かっているようで 分かっていない 災害の怖さ

走って逃げろ 死んでたまるか

今から深める 近所の仲

てやんでえ 地震に負けるか べらぼうめ

金なんて 命にくらべりゃ 安いもの

身近にある危険 高めよう 防災意識

いつ来るの 今かもしれない その時が

幸 木 隼 斗

土 内 彩

筋 野 里 佳

井 出 圭 祐

山 田 真 子

勇 夕 希

筋 野 里 佳

勇 夕 希

森 本 貴 之

井 出 圭 祐

中 林 可 奈 子

猪 谷 奈 美

楽しく学習する工夫として
防災標語を短冊に書き、そ
れを教室に飾りました。

防災カレンダーづくり③「今日は何の日フッフ〜♪」

過去の災害を調べることで、災害から教訓を得ました。

またDVD学習を組み込むことで、災害の恐ろしさを再認識し、防災学習の原点に戻りました。

参考：DVD「20世紀日本 大災害の記録」



DVD学習の様子



過去の災害を調べる様子



発表の様子

防災カレンダーづくり③「今日は何の日フッフ～♪」

外野の人たち（担当月 / 1月、7月）

| | | |
|-------|-----------|----------|
| 大正 3年 | 1月12日 | 桜島大噴火 |
| 昭和20年 | 1月13日 | 三河地震 |
| 昭和53年 | 1月14日 | 伊豆半島近海地震 |
| 平成 7年 | 1月17日 | 阪神淡路大震災 |
| 平成 元年 | 7月13日 | 伊東沖海底噴火 |
| 平成 5年 | 7月12日 | 北海道南西沖地震 |
| 平成 5年 | 7月31～8月7日 | 平成5年8月豪雨 |
| 平成12年 | 7月 8日 | 三宅島噴火 |

くまちゃん（担当月 / 2月、8月）

| | | |
|-------|-----------|--------|
| 昭和11年 | 2月21日 | 河内大和地震 |
| 昭和36年 | 2月 2日 | 長岡地震 |
| 昭和43年 | 2月21日 | えびの地震 |
| 明治29年 | 8月31日 | 陸羽地震 |
| 昭和36年 | 8月19日 | 北美濃地震 |
| 昭和40年 | 8月 3日～ | 松代群発地震 |
| 昭和52年 | 8月 7日 | 有珠山噴火 |
| 平成 5年 | 8月31～9月5日 | 台風13号 |

防災カレンダーづくり③「今日は何の日フッフ～♪」

フリーダム（担当月 / 3月、9月）

| | |
|--------------|---------|
| 大正 3年 3月 15日 | 秋田仙北地震 |
| 昭和 2年 3月 7日 | 北丹後地震 |
| 昭和 8年 3月 3日 | 三陸地震津波 |
| 昭和21年 3月 9日 | 桜島噴火 |
| 昭和27年 3月 4日 | 十勝沖地震 |
| 昭和57年 3月 21日 | 浦河沖地震 |
| 平成12年 3月 31日 | 有珠山噴火 |
| 平成13年 3月 24日 | 芸予地震 |
| | |
| 大正12年 9月 1日 | 関東大震災 |
| 昭和18年 9月 10日 | 鳥取地震 |
| 昭和27年 9月 17日 | 明神礁大噴火 |
| 昭和59年 9月 14日 | 長野県西部地震 |
| 平成15年 9月 26日 | 十勝沖地震 |

サララップ（担当月 / 4月、10月）

| | |
|---------------|----------|
| 明治24年 10月 28日 | 濃尾地震 |
| 昭和54年 10月 28日 | 御嶽山噴火 |
| 昭和58年 10月 3日 | 三宅島噴火 |
| 平成 6年 10月 4日 | 北海道東方沖地震 |
| 平成12年 10月 6日 | 鳥取県西部地震 |
| 平成16年 10月 23日 | 新潟県中越地震 |

防災カレンダーづくり③「今日は何の日フッフ～♪」

読売巨人軍（担当月 / 5月、11月）

| | |
|-------------|---------|
| 大正14年 5月23日 | 北但馬地震 |
| 昭和35年 5月24日 | チリ地震津波 |
| 昭和43年 5月16日 | 十勝沖地震 |
| 昭和49年 5月 9日 | 伊豆半島沖地震 |
| 昭和58年 5月26日 | 日本海中部地震 |
| 平成15年 5月26日 | 宮城県沖地震 |
| 昭和 5年11月26日 | 北伊豆地震 |
| 昭和61年11月15日 | 伊豆大島大噴火 |
| 平成 2年11月17日 | 雲仙普賢岳噴火 |

個人軍（担当月 / 6月、12月）

| | |
|-------------|-----------------|
| 明治29年 6月15日 | 三陸地震津波 |
| 明治38年 6月 2日 | 芸予地震 |
| 昭和23年 6月28日 | 福井地震 |
| 昭和33年 6月24日 | 阿蘇山噴火 |
| 昭和37年 6月29日 | 十勝岳噴火 |
| 昭和39年 6月16日 | 新潟地震 |
| 昭和53年 6月12日 | 宮城県沖地震 |
| 昭和19年12月 7日 | 東南海地震 |
| 昭和21年12月21日 | 南海地震 |
| 平成16年12月26日 | インドネシア・スマトラ島沖地震 |

未来予想図 ～災害復興会議～

由岐町が南海地震で被災したと仮定して、生徒自らが復興対策を考えることにより、由岐町の良い点や、災害に対する弱点などを再認識し、由岐町の防災対策はもとより、持続する由岐町の地域づくりを考えました。

参考文献：「阪神淡路大震災 神戸復興誌」
参考資料：「新潟県中越地大震災復興計画」



津波発生イメージ



災害復興会議の様子

未来予想図 ～災害復興会議～



由岐町災害復興計画案

心あたたまる町づくり

花いっぱい、歌を歌う

みんながふれあう町づくり

みんなで〇〇する、お茶会、祭り、運動会

防災意識の高い町づくり

防災教育、語り部、災害記念館

高齢者や障害者が感心して住める町づくり

リフトを備えた避難場所(バリアフリー型)
若者と高齢者との関わり
仲の良い家族(一人暮らしの老人をなくす)

自然に配慮した土地利用

高い山に町をつくる
津波の心配のない場所に家や病院などを建てる

産み出す町づくり

働く場を増やす(企業の誘致)、漁業の振興

災害に備える町づくり

- ・地震対策
地震で倒れない家、地震にも津波にも負けない丈夫な家を建てる、古い家を取り壊す
- ・津波対策
防波林、防波堤、センサーによる巨大津波防止扉
- ・備蓄対策
50年は中身が腐らない防災倉庫
各地域で食糧・衣料・医薬品などを蓄える
- ・支援の受け入れ対策
災害支援列車、災害ボランティア、ヘリコプター降着場
- ・各家庭の備え
地震保険の加入
- ・避難対策
山に通じる広い道路、道路を広げる、避難所の耐震化、地下に避難する
- ・情報通信対策

若者が住みやすい町づくり

安心して子育てできる町づくり

防災カレンダーづくり④「7～12月まで」

由岐町災害復興計画案の中から、各班ごとにテーマを選定し、その表現方法(素材作成方法)を考えて、カレンダーに使う素材を作成しました。

(1) フリーダム

テーマ：**みんなであいさつする**

内容：人の絆の大切さを絵と写真を使って表現する。写真は地域に出て、地域の人々の笑顔を撮ってくる。

素材ベース：絵、写真(実写) 必要な物：画用紙、絵の具、デジカメ

(2) 外野の人たち

テーマ：**まちづくり構想案をつくろう！**

内容：災害復興計画の中に出てきた提案を地図に記入し、まちづくり構想案を作成する。

素材ベース：白地図 必要な物：白地図、マジック、色鉛筆、ペン

(3) くまちゃん

テーマ：**津波防潮林**

内容：湾内の航空写真に木を描いた紙を貼り付け、津波の威力を抑える防潮林を表現する。

素材ベース：航空写真 必要な物：湾内の航空写真、色画用紙、のり

(4) 読売巨人軍

テーマ：**お年寄りと若者との絆**

内容：デイサービスセンターに行き、そこでお年寄りと交流しているところを写真に撮り、お年寄りと若者との絆の大切さを表現する。

素材ベース：写真(実写) 必要な物：デジカメ

(5) サランラップ

テーマ：**高い所に町をつくる**

内容：津波から襲われない、高くて安全な場所の整備の必要性を、4コママンガ風に表現する。

素材ベース：絵 必要な物：画用紙、絵の具(生徒個人)

(6) 個人軍

テーマ：**防災教育**

内容：一人が先生役、その他の者が生徒役となり、先生役が生徒役に対して津波高を示している様子を写真に撮り、防災教育の大切さを表現する。

素材ベース：写真(実写) 必要な物：スタッフ、大人の服装、デジカメ、ペットボトルのキャップ、割り箸

防災カレンダーづくり④「7～12月まで」

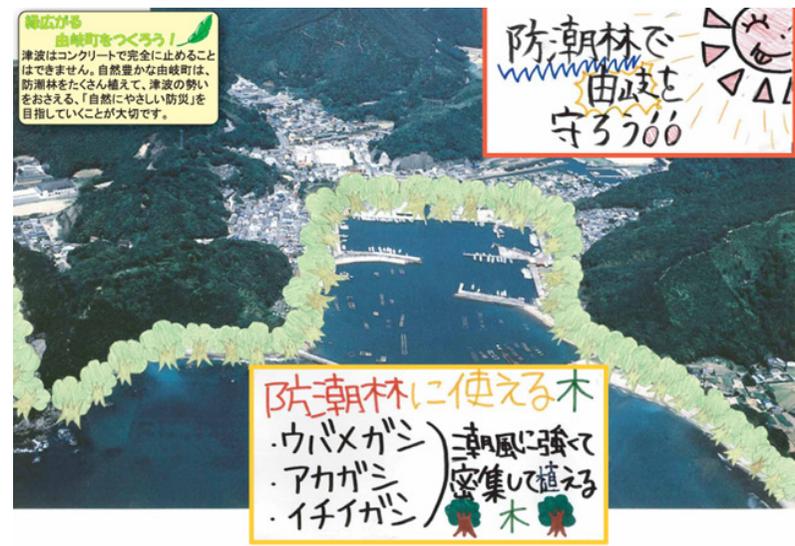
「外野の人たち」班

テーマ: まちづくり構想案をつくろう!



「くまちゃん」班

テーマ: 津波防潮林



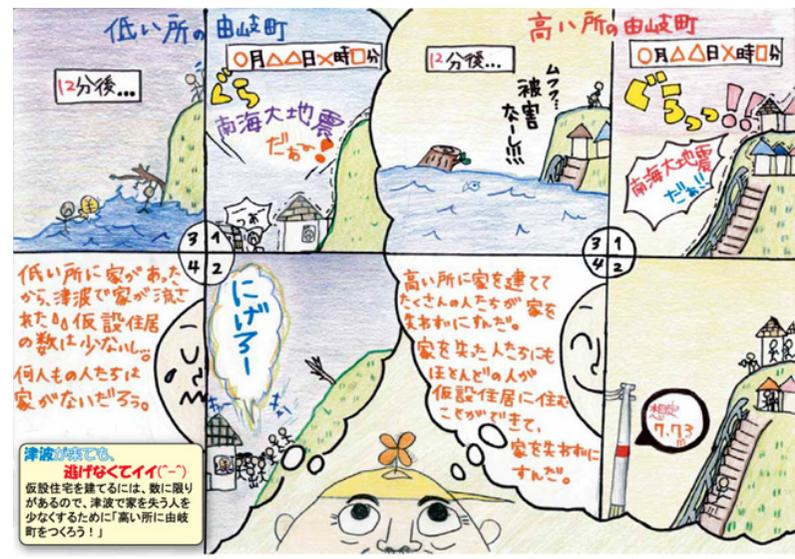
「個人軍」班

テーマ: 防災教育



「サランラップ」班

テーマ: 高い所にまちをつくる



防災カレンダーづくり④「7～12月まで」



「読売巨人軍」班

テーマ:お年寄りと若者との絆

「フリーダム」班

テーマ:みんなであいさつ



交流から絆へ
人と人のつながり
お年寄りと若者が、普段から心と心の交流をすることで、いざというとき、若者がお年寄りをすぐに助けるようにする。おじいさん、おばあさんが安心して暮らせる由岐町をつくらう！



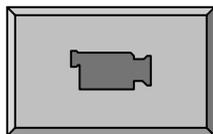
みんな笑顔であいさつ
笑顔から絆へ
災害時に助け合うためには、普段から話をしたり、笑顔であいさつをすることが大切です。それが災害時だけでなく、「元気な由岐町」をつくることにつながっていきます。

※ なお、防災カレンダーのデータ作成については、Adobe Illustrator10及びAdobe Photoshop6.0を使用し、その後、印刷会社にデータ入稿しました。それにより、低コストかつ美しい仕上がりを実現することができました。(防災カレンダー1冊あたりの単価 168円)

お世話になったあの人に防災カレンダーをわたそう



講師などご協力いただいた方々に手紙を書く様子



インタビューなどご協力頂いた方々に防災カレンダーをわたす様子



おわりに「継続は力なり」

防災教育を通じて生徒達と真剣に向き合い、「教える」ではなく「導く」ということを意識しながら実施してきました。

その結果、生徒達は命の大切さや絆の大切さに気づきました。今回得た教訓は、彼らの人生の中できっと役に立つと思います。

一方地域は、防災カレンダーにより防災意識が確実に上がったと言えます。ただ、今の一瞬をとらえて楽観するのではなく、今後、その意識を継続させていくことこそが重要です。また防災教育を通じて生徒達は自分の地域に目を向け、地域を大切に思っています。これが何より地域にとっての財産と言えます。

これからも防災教育を続けていき、それが「持続する地域」づくりへと繋がっていけるよう、学校も行政も努力していきます。

人と人との温かいつながり
ふるさとを愛する心